

「ボーナスと暮らし向きに関するアンケート調査」(2013年夏)の結果

当センターでは、2013年夏のボーナス予想や暮らし向きについて、千葉銀行各支店の来店客(1,000人)を対象にアンケート調査を実施し、その結果は次のとおりとなった。

概 要

1. ボーナス予想額 : 51万1千円(昨夏比、1千円増加(0.2%増))

今回のアンケート調査は、東日本大震災後の復興予算が本格的に始動し、企業業績がゆるやかな回復傾向を示し、デフレからの脱却を図るアベノミクスの期待感もある中で行われた。

今夏のボーナス予想額は51万1千円となり、昨夏の受取額(回答者の実績)を1千円上回った。国際的な金融危機の引き金となったリーマンショック後の2008年冬以降2012年冬まで、夏冬を通じて9季連続の前年実績割れであったものが、今夏10期ぶりに僅かであるが前年比プラスに転じた。

2. 暮らし向きアンケート調査について

今後の半年間の見通しは、収入増加への期待感が広まりつつある反面、消費支出を減らすとの回答も増加している。また、先行き(今後半年間)の見通しにおいては、「良くなりそう」11.1%(現状6.7%)で4.4ポイントの良化を予想しているが、「悪くなりそう」においては、17.7%(現状12.9%)と現状より4.8ポイント増加をしており、先々に対しなお慎重な姿勢が窺える。

▽ボーナスの増減予想では、「増えそう」は10.9%(昨夏7.8%)と3.1ポイント増加し、「減りそう」は13.1%(昨夏28.9%)と15.8ポイント減少している。また、「変わらない」が76.0%(昨夏63.3%)と12.7ポイント増加し、全体としては良化している。

▽ボーナスの配分については、1位「貯蓄」、2位「教育・教養」、3位は「ローンの返済」で、以下「生活費の補填」、「旅行・レジャー」、「買い物」の順である。

▽貯蓄の内訳をみると、「銀行預金(財形貯蓄を含む)」83.1%、「社内預金」6.6%、「ゆうちょ貯金」5.4%、「株式・投信」3.6%の順となっている。銀行預金の堅調さが今夏も目立っている

▽貯蓄の目的は、1位「老後の備え」、2位「教育資金」、3位「旅行・レジャー」、4位「住宅関連資金」、5位「不時の備え」、以下「車の維持管理」、「耐久消費財」の順となっている。

▽購入希望品目では、1位「婦人服」、2位「紳士服」、3位「家具・インテリア」が上位を占めた。既婚・独身を問わず男性は「紳士服」、女性は「婦人服」をそれぞれ1位にあげている。

調査結果

1 ボーナスの増減予想

—ボーナスの増減予想では、「増えそう」は 10.9% (昨夏 7.8%) と 3.1 ポイント増加し、「減りそう」は 13.1% (昨夏 28.9%) と 15.8 ポイント減少し、また「変わらない」が 76.0% (昨夏 63.3%) で 12.7 ポイント増加しており、全体的に前年比良化している。—

増減予想を年齢階層別みていくと、「増えそう」との回答が全年齢層で昨夏に比して増加している。一方「減りそう」との回答は全年齢層で減少している。

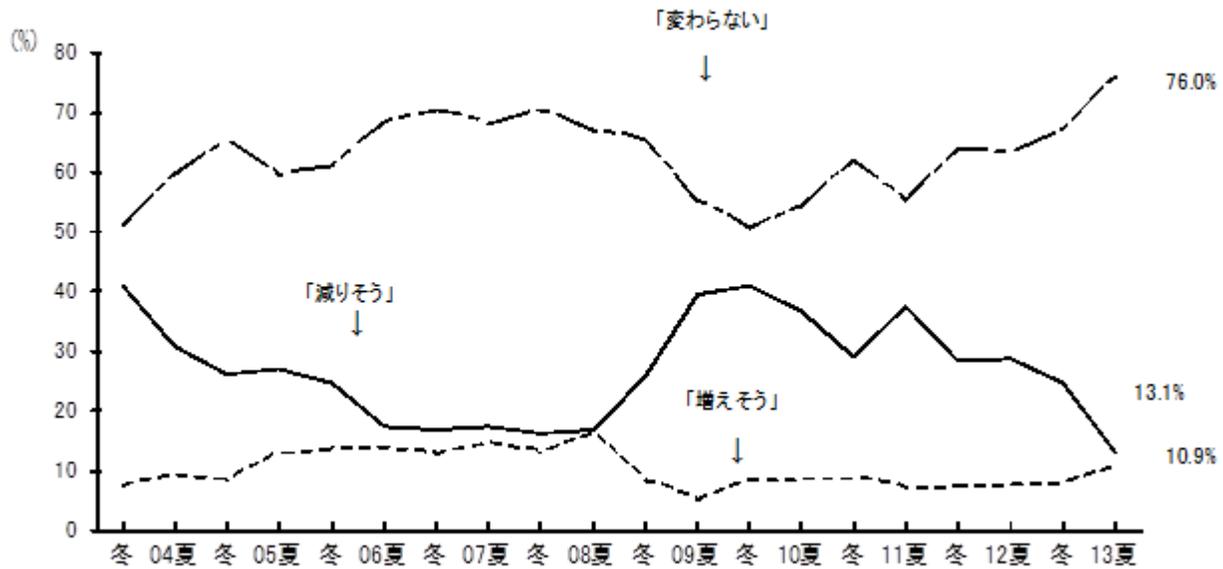
さらに「変わらない」との回答は全年齢層で増加している。(図表-1、2)

以上のことは、全ての年齢階層で昨夏の調査結果と比較して良化しており、5年ぶりの傾向として注目したい。

なお、ボーナス予定日は、6月中が全体の 65.2% (うち、上旬 21.8%、中旬 15.0%、下旬 28.4%) で、7月中が 26.0% である。

		「増えそう」	「減りそう」	「変わらない」
平均	11夏	7.2	37.5	55.3
	12夏	7.8	28.9	63.3
	13夏	10.9	13.1	76.0
30歳未満	11夏	16.2	24.3	59.5
	12夏	17.0	15.1	67.9
	13夏	19.0	8.5	72.5
30歳代	11夏	9.2	36.6	54.2
	12夏	7.5	29.9	62.7
	13夏	15.8	13.0	71.2
40歳代	11夏	2.9	46.6	50.5
	12夏	5.3	28.4	66.2
	13夏	6.3	13.6	80.1
50歳以上	11夏	4.8	35.7	59.5
	12夏	5.7	36.9	57.4
	13夏	6.3	16.1	77.6

図表-2 ボーナス増減予想割合の推移



2 ボーナスの予想額

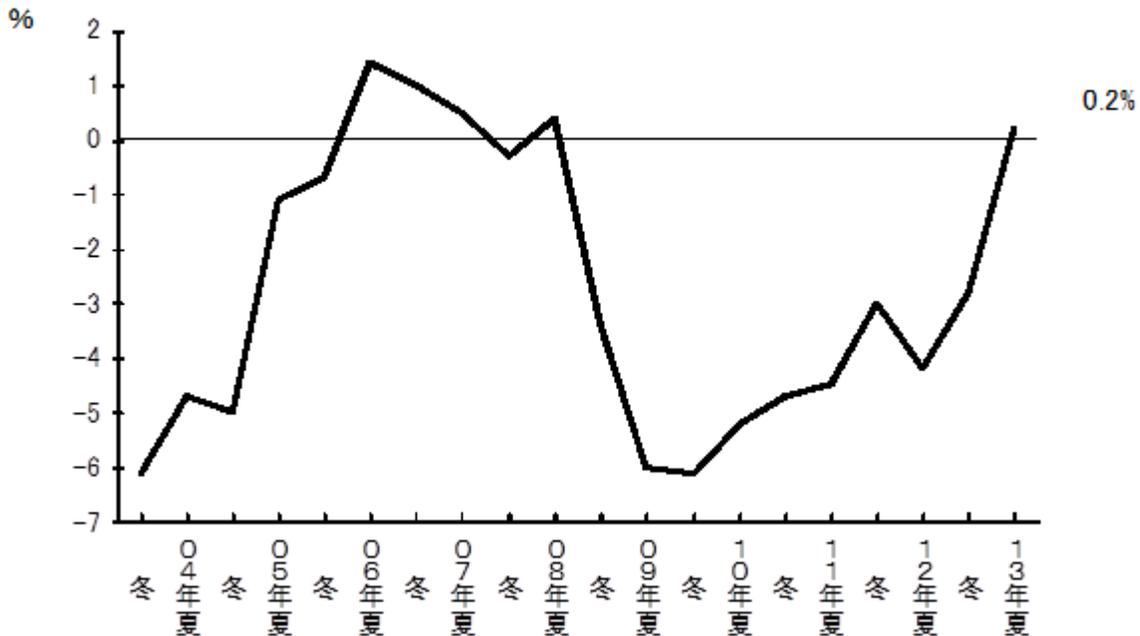
—今夏のボーナス予想額は51万1千円となり、前年の受取額(回答者の実績)を1千円上回った。このことは、リーマンショック後の2008年冬から2012年冬まで、夏冬を通じて9季連続の前年実績割れであったものが、今夏10期ぶりに僅かであるがプラスに転じた。—

ボーナスの予想額(回答者の平均、税引き後の受取額)は51万1千円で、前年比0.2%増(回答者の前年実績比)となった。前年の受取額を1千円上回る回答である。今夏の調査は東日本大震災後の復興予算が本格的に始動し、企業業績がゆるやかな回復傾向を示し、デフレからの脱却を図るアベノミクスの期待感もある中で行われた。質問に対する回答の年齢階層別では、40歳未満の若年層で前年比増とする回答が多く見受けられたのに対し、40歳以上の中高年層では前年比若干の減少とする回答が多かった。ただし、減少幅は縮小傾向にある。(図表3、4)。

図表-3 ボーナス予想額・予想伸び率

		予想額 (万円)	予想伸び率 (対前年夏、%)
平均		51.1	0.2
30歳未満		35.9	7.5
30歳代		43.2	0.0
40歳代		56.5	△ 2.1
50歳以上		62.3	△ 0.5
勤務	県内	49.2	0.6
地別	東京	64.3	△ 2.7

図表-4 ボーナス予想伸び率の推移



3 ボーナスの配分予定

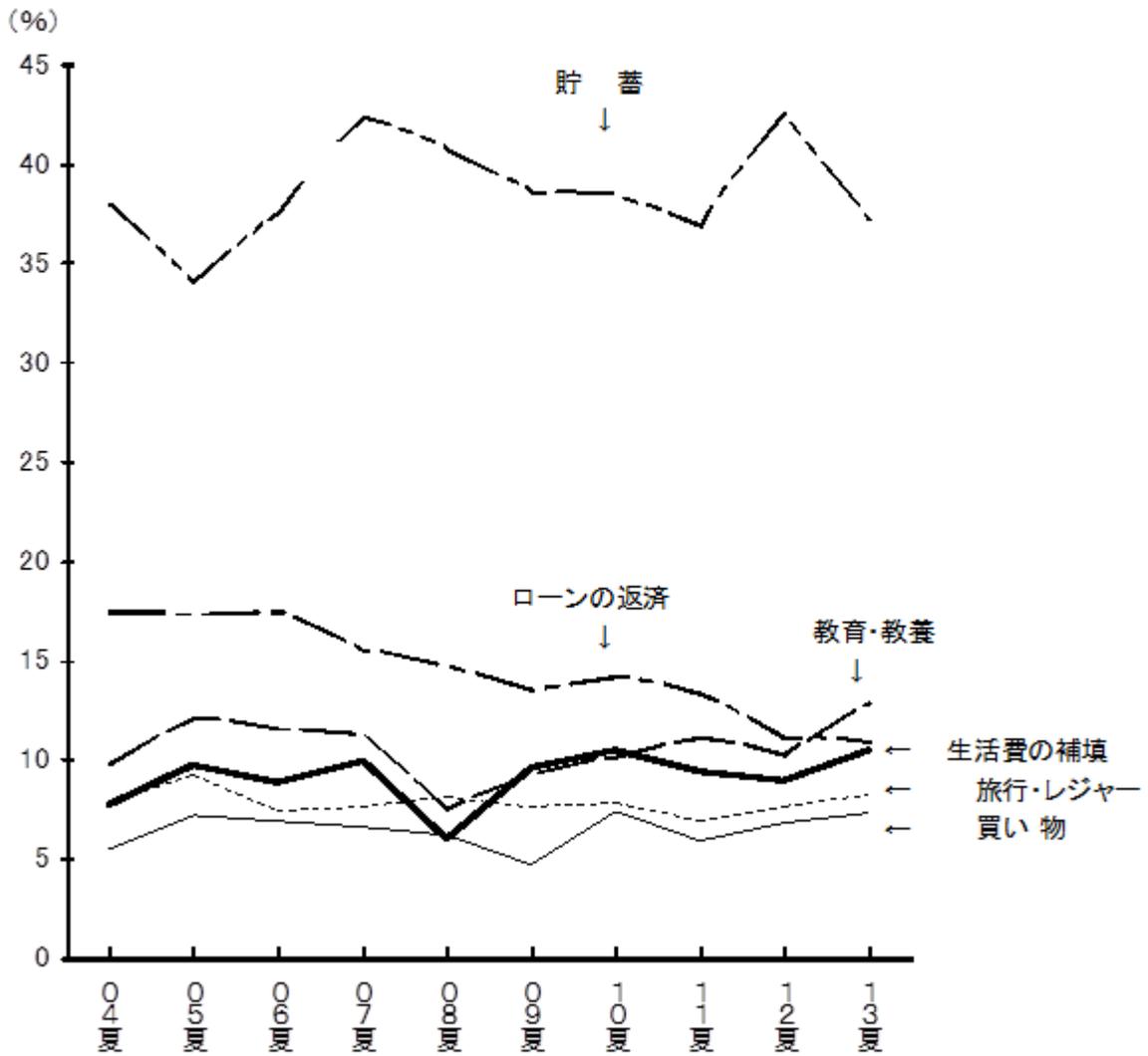
——ボーナスの配分については、1位「貯蓄」、2位「教育・教養」、3位は「ローンの返済」である。以下「生活費の補填」、「旅行・レジャー」、「買い物」の順である。前年比2位と3位が入れ替わった。—

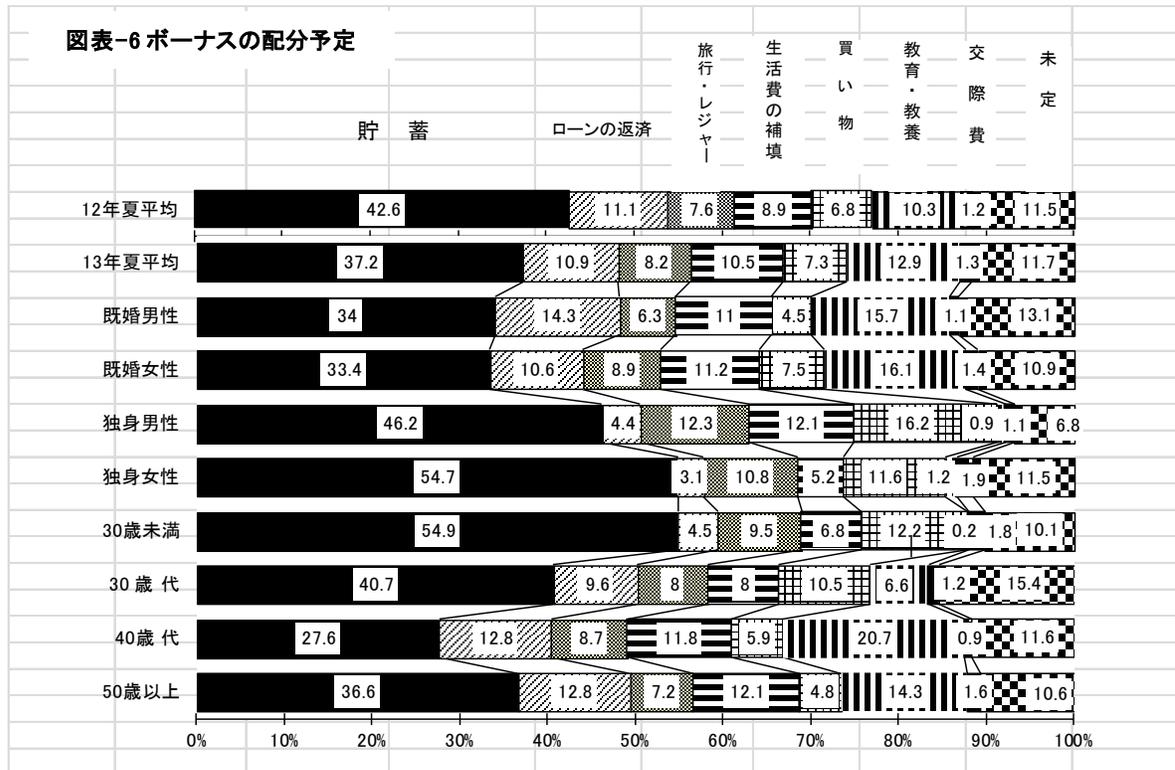
ボーナスの配分予定は、1位「貯蓄」(37.2%)、2位「教育・教養」(12.9%)、3位「ローンの返済」(10.9%)で、以下「生活費の補填」(10.5%)、「旅行・レジャー」(8.2%)、「買い物」(7.3%)の順となっている。「貯蓄」は景気の上下にあまり関係なく常にトップである。(図表-5、6)。

既婚・独身、男・女別で見ると、既婚・独身を問わず、まず「貯蓄」に回すと答えている。なかでも独身者は男性、女性ともに貯蓄志向が高く、男性は46.2%、女性は54.7%を貯蓄に回すと回答している。独身者の将来へ向けての計画性が見て取れる。「貯蓄」以外の項目では、独身者は既婚者に比べて、「買い物」のウェイトが高く、既婚者は独身者に比べて「教育・教養」、「ローンの返済」に高い割合を占め、独身者と既婚者のそれぞれの特徴を表わしている。

年齢別でも、全ての年齢層において、「貯蓄」が一番の配分となっている。特に、30歳未満(54.9%)と30歳代(40.7%)は貯蓄意欲が高い。「貯蓄」以外の年齢階層による特徴としては、30歳未満と30歳代の年齢層が「買い物」に、40歳代・50歳以上は「教育・教養」、「ローンの返済」に他の年齢層に比べそれぞれ配分割合が高くなっている。

図表-5 ボーナスの配分予定の推移



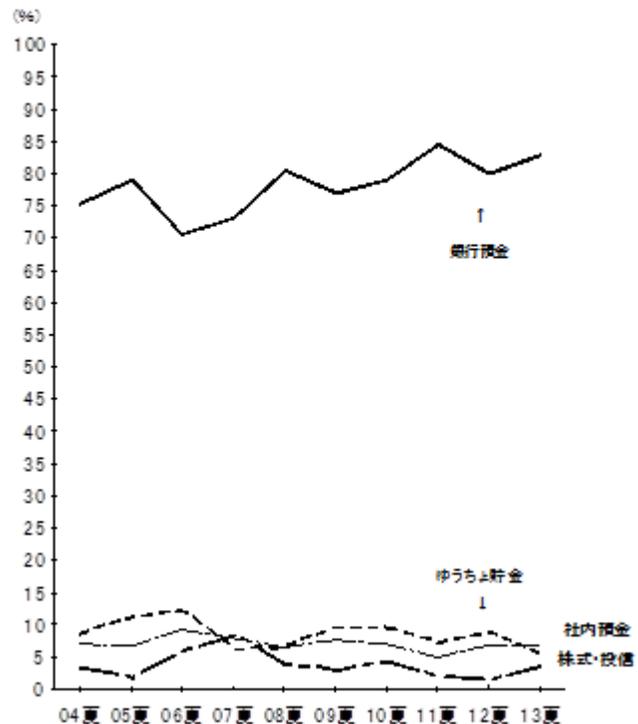


4 貯蓄の内訳

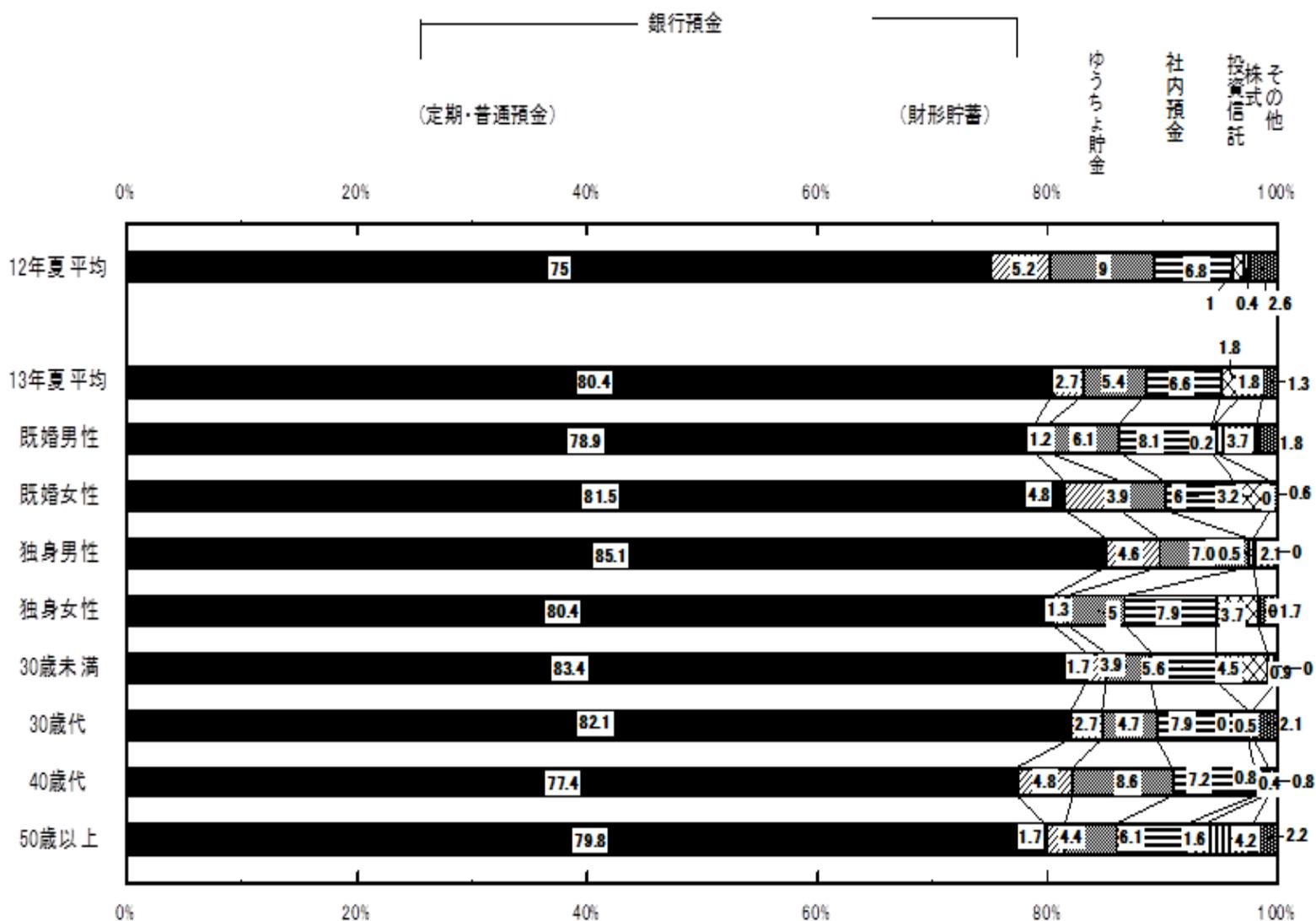
—貯蓄の内訳をみると、「銀行預金（財形貯蓄を含む）」83.1%、「社内預金」6.6%、「ゆうちょ貯金」5.4%、「株式・投信」3.6%の順となっている。順位は昨夏と比べ「ゆうちょ貯金」と「社内預金」が入れ替わった。銀行預金の高さが今夏も目立っている。—（図表-7）

貯蓄の内訳を、既婚・独身、男・女別、年齢別でみると、いずれも「銀行預金」の割合が一番高い。その中でも独身男性は 89.7%で一番高い割合を示している。「銀行預金」以外では、「社内預金」は既婚男性(8.1%)、「ゆうちょ貯金」は 40 歳代(8.6%)、「株式・投信」は 30 歳未満(5.4%)とそれぞれ高い関心を示している。（図表-8）

図表-7 貯蓄の内訳推移

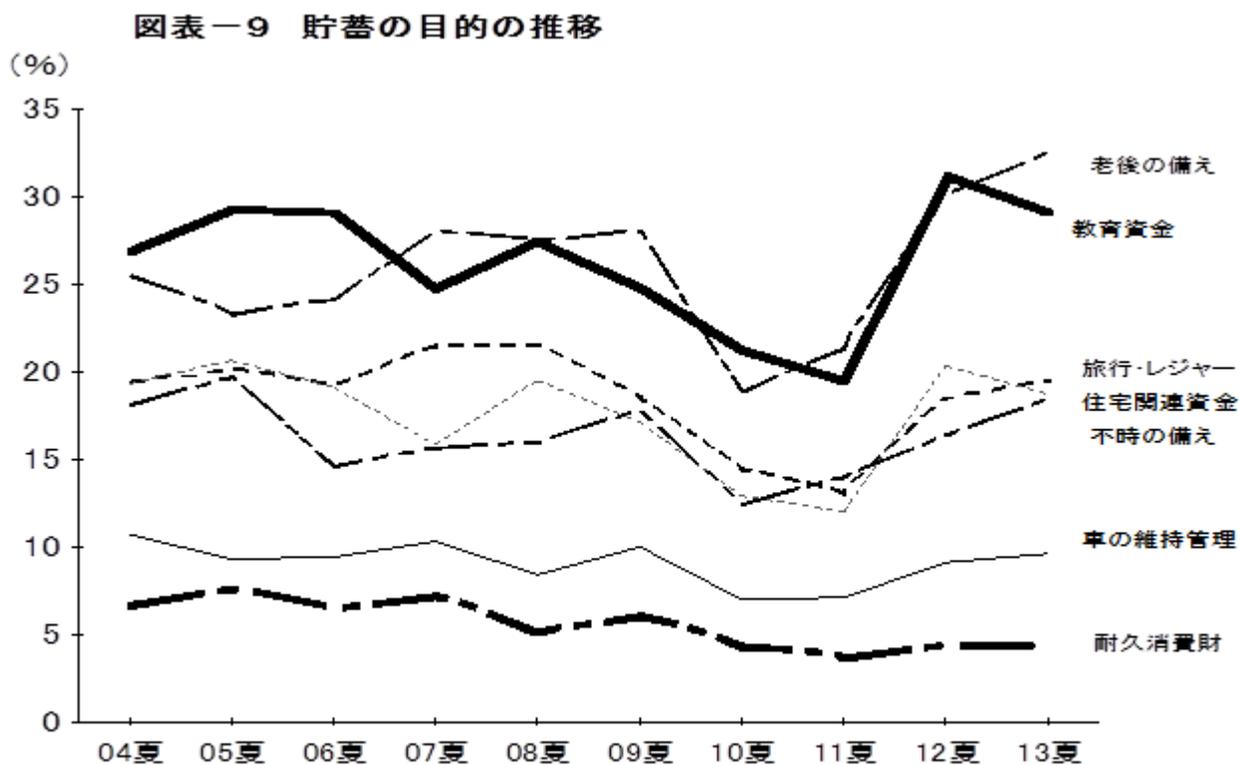


図表一 貯蓄の内訳



5 貯蓄の目的

—貯蓄の目的は、1位「老後の備え」、2位「教育資金」、3位「旅行・レジャー」が上位であった。以下「住宅関連資金」、「不時の備え」、「車の維持管理」、「耐久消費財」の順となっている。—（図表-9）

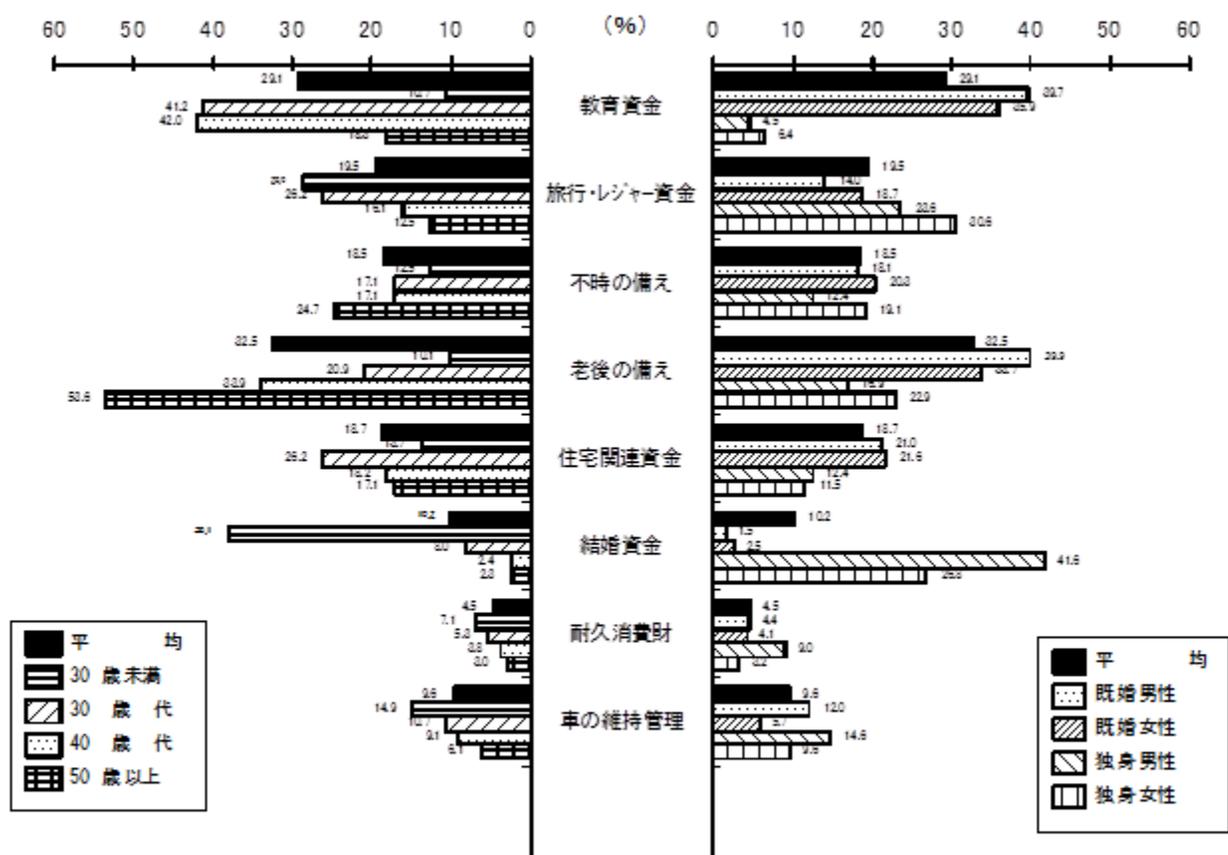


貯蓄の目的(複数回答)は、「老後の備え」32.5%が昨夏1位であった「教育資金」29.1%を上回り1位となった。つづいて3位「旅行・レジャー」19.5%の順となった。

年齢別にみると、30歳未満は「旅行・レジャー」(28.6%)、30歳代は「住宅関連資金」(26.2%)、40歳代は「教育資金」(42.0%)、50歳以上は「老後の備え」(53.6%)が、他の年齢層に比べそれぞれ高く、各年代のライフスタイルの特徴が表われている。

既婚・独身、男・女別では、既婚男性は「老後の備え」(39.9%)、既婚女性は「教育資金」(35.9%)、独身男性は「結婚資金」(41.6%)、独身女性は「旅行・レジャー」(30.6%)を貯蓄目的のトップにあげている。(図表-10)

図表-10 貯蓄の目的(複数回答)



注) 左欄は年齢別、右欄は既婚男・女性、独身男・女性別

6 購入希望主要品目

—購入希望主要品目では、1位「婦人服」、2位「紳士服」、3位「家具・インテリア」が上位で、昨年と同じ順位であった。既婚・独身を問わず男性は「紳士服」、女性は「婦人服」をそれぞれ1位にあげている。—

ボーナスで買いたいもの(複数回答)は、「婦人服」(14.7%)、「紳士服」(9.5%)、「家具・インテリア」(7.8%)の順となった。以下「靴」、「鞆・ハンドバッグ」、「子供服」となった。(図表-11)

図表-11 購入希望主要品目

(複数回答、単位：%)

全 体				既 婚 男 性		既 婚 女 性	
	11夏	12夏	今夏	紳 士 服	14.8	婦 人 服	17.4
婦 人 服	12.8	13.7	14.7	婦 人 服	9.3	家具・インテリア	9.1
紳 士 服	7.8	9.5	9.5	子 供 服	8.0	子 供 服	8.6
家具・インテリア	7.5	7.6	7.8	家具・インテリア	7.8	鞆・ハンドバッグ	7.7
靴	4.8	6.3	7.1	パソコン	5.0	靴	5.8
鞆・ハンドバッグ	5.1	5.2	6.2				
子 供 服	5.6	7.1	5.7	独 身 男 性		独 身 女 性	
パソコン	6.6	5.4	4.2	紳 士 服	21.7	婦 人 服	26.6
冷蔵庫	3.3	3.1	3.6	靴	11.7	靴	12.3
乗 用 車	3.9	3.4	3.4	パソコン	7.5	鞆・ハンドバッグ	11.9
電話・携帯電話機	7.4	1.9	3.3	パソコン周辺機器	6.7	家具・インテリア	7.9
ルームエアコン	3.3	3.6	2.8	ゲーム機・ソフト	5.0	化粧品	7.1

7 暮らし向きについて

—直近半年間の暮らし向きに対して今後半年間の見通しは、収入増加への期待感が広まりつつある。消費支出面では縮小傾向、生活全般では「良くなりそう」と「悪くなりそう」とがほぼ同じ割合で増えている。—(図表-12)

(1) 収入

半年前と比べ、収入が「増えた」との回答割合は 8.8%で、半年後の先行きについての「増えそう」との回答は 11.0%で、比較した現在の実感では 2.2 ポイント増加。一方「減った」は 18.3%で、半年後の「減りそう」は 17.3%で 1 ポイント減少し、収入増加への期待感が広まりつつある。

(2) 消費支出

半年前と比べ、支出を「増やした」との回答割合は 19.8%で、半年後の先行きについての「増やす」との回答は 11.1%で 8.7 ポイント減少。一方「減らした」は 17.5%で、半年後の「減らす」は 26.8%で 9.3 ポイント増加し、家計支出は先行き縮小傾向が予想される。

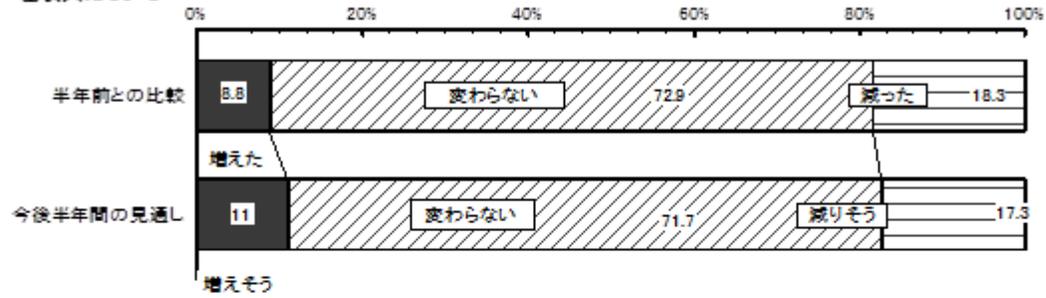
(3) 生活全般

直近半年間の暮らし向きについては、「生活全般」において「良くなった」が 6.7%で、半年後の先行きについての「良くなりそう」との回答は 11.1%で、4.4 ポイントの良化予想。一方「悪くなった」は、12.9%で、半年後の「悪くなりそう」が 17.7%で 4.8 ポイント増加している。今後当面は、良化、悪化ともにほぼ同割合で増加して行くとの回答となった。

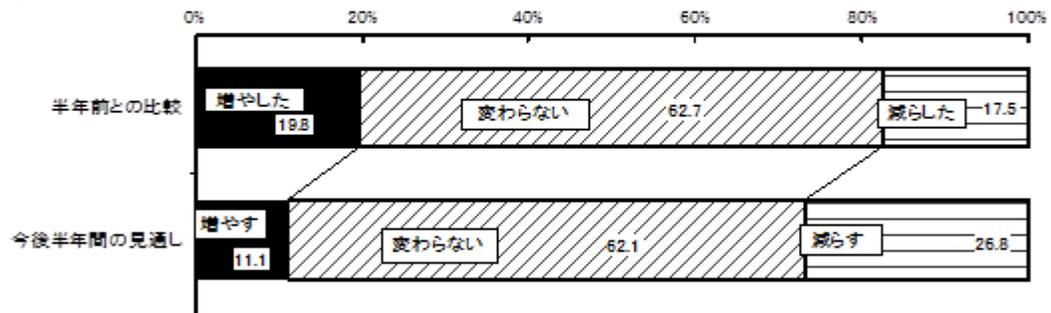
(高橋 廣)

図表-12 暮らし向きの実感と今後の見通し

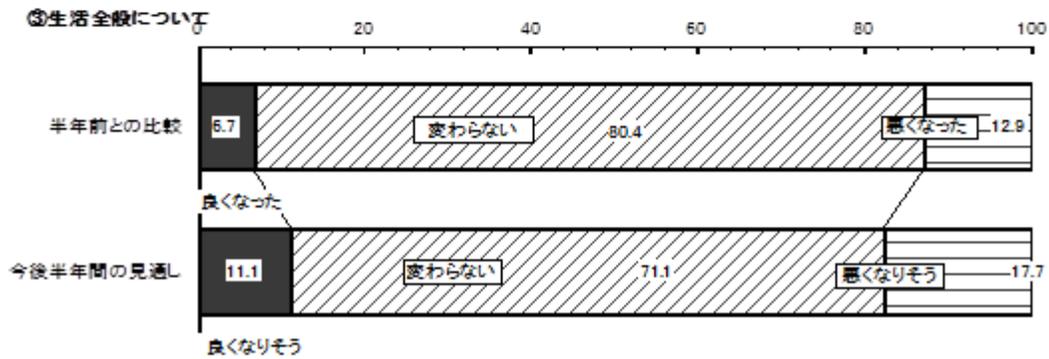
①収入について



②消費支出について



③生活全般について



回答者の構成					(人)
	30歳未満	30歳代	40歳代	50歳以上	計
既婚男性	20	73	113	137	343
既婚女性	20	64	130	101	315
独身男性	52	15	12	10	89
独身女性	76	35	31	15	157
計	168	187	286	263	904

アンケート調査実施要領	
①方 法	千葉銀行への来店客を対象として、ロビーにて実施
②実 施 日	2013年4月10日～12日
③対 象 地 域	県内全域
④対 象 人 員	1,000人
⑤有効回答数	904人
有効回答率	90.4 %